

# 「いつでも、どこでも、何度でも受けることが出来るPCR 検査体制」を一日も早く作ることを求める申し入れ

鎌ケ谷市長 清水聖士様

2020年8月6日

「民主と自治の会」

藤代政夫

渡邊俊彦

佐藤剛

戸部光枝

日頃より鎌ケ谷市民の生命と健康を守るため、医療・福祉の諸課題の解決に向けてご尽力くださり、心より敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症は第二波の入り口にたっているような様相を呈しています。7月16日の参議院予算委員会で児玉教授が「東京型・埼玉型のコロナウイルスが新宿などでエピセンター（発生源）を形成し始めている。面的にその地域の人々全員の検査（PCR検査）で無症状の感染者を把握し、隔離・治療していかなければ大変なことになる。」と警告したが国も東京都も応えることなく今日の状況が作られています。

8月1日は新たな感染者が東京都で472名、千葉県73名、全国で1537名。鎌ケ谷市も1名で7/31には「アヴィラージュ新鎌ケ谷」でクラスター（8名）が生じています。

コロナ感染症対策の要は、“早期の徹底したPCR検査と隔離・治療・追跡”であることは世界のコロナ制圧の成功例（韓国・中国・ニューヨーク）からも明らかです。日本は世界159位とPCR検査をまったくしよとしない国になっていますが、地方自治体から声を上げ動き出さなければ住民の命も健康も守れません。

世田谷区の保坂区長は児玉教授のアドバイスを受けて“いつでも、どこでも、何度でもPCR検査を受けられる体制”＝世田谷モデルを作ることを表明。

「人と接する特定の職業（病院・介護施設・学校・美容室など）の従事者に対して病状の有無にかかわらず一定期間ごとに検査を行い、罹患者については速やかに隔離・治療を行うことで安心して仕事が出来、サービスを受けられるようにする」と“PCR検査の拡大拡充＝行政検査＋社会的検査”でコロナを制圧していこうとしています。

鎌ケ谷市でも病院の院内感染、介護・福祉施設での施設内感染を防ぐためには、事前に病状の有無にかかわらず無症状でも従事者全員のPCR検査をすることが必要です。

以下要請します。

- ① 院内感染・施設内感染を防ぐために、医療・介護・障害福祉、保育、教育等の関係従事者全員の検査を公費負担で実施する新たなPCR検査の手続き・制度を早急に作ってください。

- ② 検査を希望する市民、特に年齢や持病・既往症などで心身に不安を感じている市民を検査の対象にした PCR 検査体制を作り、公費負担で実施してください。
- ③ 市中感染拡大を防ぐために、地域を特定し住民全体を検査（抗体検査・PCR 検査）の対象にする取り組みの実施体制を確立してください。
- ④ 陽性者が多数出た場合に備え、無症者・軽症者に対応する医療・療養施設であるホテル等の確保・拡充、ならびに重症者のための医師・看護師・医療病床・機器・備品の備えを具体的に把握し十分準備するよう千葉県に強く要請してください。

以上の申し入れを一日も早く実現することをもとめます。8月26日までに文書での回答を求めます。